

校長室だより		令和 8 年 5 月 29 日発行
共学共高	第	
	93	発行責任者
	号	白梅学園高等学校長 武内 彰

青春の汗流す～体育祭 part 1

63 期生が入学してから約 2 か月となる、5 月 27 日に本校グラウンドで体育祭を行った。当日は曇りの予想であったが、朝から日差しが差し込み、暑い一日となりそうな気配である。早朝のグラウンドでは、教育実習生が教員と共に万国旗を設置する。「在校生の時にはどうやって設置しているのかしらと思っていました」とのことである。

生徒たちが椅子をもってグラウンドに集まってくる。小平市長の小林洋子様をはじめ、御来賓の皆様も暑い中、御来校くださり、ありがたいことである。また、保護者の皆様のなかには、立ち見という方も少なくない状況で恐縮である。最後の体育祭となる 3 年生の保護者の皆様の御来場が多い。

開会式では、生徒会長の K さんによる開会宣言、体育委員長の S さんによる選手宣誓と続く。力強い宣誓に全校生徒から拍手が起きる。諸注意は副委員長の H さんである。こちらでも拍手が起きる。いよいよ全校行事の始まりである。

プログラム 1 番は「準備体操」である。ダンス部部長の N さんが朝礼台の上に立ち、また、ダンス部の面々が最前列で全校生徒と向き合い、お手本を示しながら、オリジナルの準備体操を行うのである。今年のもは、私でもなんとかついていけた。私は早くも達成感を味わうと共に、息切れが収まるのに数分を要する。

放送部が次の種目「共通 100m」をアナウンスする。記録ビデオ撮影も放送部の役目で、朝礼台の上に三脚に載せたカメラを操作するのだが、日傘をさしながらやっている。対策はばっちりだ。実はこの録画された映像は、リレーのゴールが拮抗したときに、ビデオ判定に使われることもあるのだ。実際に、この日のリレーでも S 先生が微妙な判定のところで使うことになる。

100m はさすがに陸上競技部の生徒が速いのだが、走ることに意義がある。どの選手も立派に駆け抜けてくれた。私が顧問を務めるバドミントン部からも 5 名がエントリーしているので、全力応援である。



「共通 50m ハードル」では、ハードルをいかにスムーズに超えるかも大切になってくる。走るスピードと共にハードルを越えるときに体の軸がぶれずに滑らかに飛んでいるところが素晴らしい。こちらにもバドミントン部が 5 名エントリーしているので、全力応援である。「3 年綱引き予選」では、スタートの合図とともに、一気に勝負を決めるクラスが多いようだ。激しい戦いである。それに比べて、決勝の際にはなかなか勝負が決まらないケースが多い。決勝ともなると、力量差が小さくなるのだろう。勝ったチームは歓声を上げている。

「成長ムカデリレー」は学年ごとにクラス対抗で行われる。スタート時は 3 人だが、グラウンドを回るにつれて、5 人、8 人と人数が増え、ゴール時には 10 人となる。2 年生と 1 年生のレースでは「1, 2, 1, 2・・・」と掛け声をするチームが多いが、3 年生となると個性的な掛け声が聞こえてくる。「1, 2, 3, 4, ALO○○ (企業名)・・・」とここには記載できないものもある。3 年生のスピードが速いのが印象的だ。学年が増すにつれ、スピードも成長するようだ。



「2年台風の目」は、1本の棒を横にして、3人で持ちながら、コーンの周りを回りながらスピードを競うものである。回転するとき内側の人と外側の人とは、慣性力（遠心力）が異なるので、バランスが難しい。それでもかなりの接戦が繰り広げられている。

「1年大縄跳び」もクラスの団結力が求められる競技である。縄を回す人、跳ぶ人との呼吸が合わないと連続して跳ぶことができない。それでもかなりの回数を連続して跳んでいるクラスもある。3分間で最も跳んだ回数で勝敗が決まるのである。

「借り物・借り人競争」は、3年⇒2年⇒1年の順番に行われる。ペアになってフラフラを持ってスタートし、お題を選んで、お目当ての人を探すのである。ボランティアの生徒たちがそれぞれ仮装してグラウンドの周りに立っている。お題に合う人を見つけて、ゴールを目指すのである。すぐに見つけて、ゴールできるペアもいれば、なかなか見つけられないペアもある。それにしても生徒たちの走るスピードは速い。速く走れない私は参加しなくてよかった。



午前の部の最終種目は「3年ダンス演技」である。1, 2, 3組の生徒たちが集団で創作ダンスを披露してくれる。白いシャツにジーンズをはいた衣装で登場する。今年のテーマはビートルズの楽曲で有名な「Let it Be」(あるがままに)である。流れるようなダンスで素敵だ。校内巡回をしているときにクラスでダンスの練習をしているのはたびたび見ていたが、全体で練習する機会があったのだろうか。少なくとも私は見ていない。来賓席からは「いい演技を見せてもらいました」とのお声がる。(つづく)



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)